

都区内の名(迷)山と埋もれた歴史を掘り起こす

# 東京「消えた山」発掘散歩

寺社、天然の小山、築山、富士塚、城址、古墳、塚、  
かつての森やお狩場、大名屋敷など…

庶民は親しみと敬意と畏怖を込めて「お山」とよんだ  
本書は『平成版東京お山図会』である



『北齋漫画・五編』より



『江戸名所図会・巻之四・石神井明神の祠』より

### はじめに——東京には「お山」がこんなにあった！

天保七年（一八三六）に出版されたガイドブック『江戸名所図会』の項目には坂の名がぎつと四十ほど登場する。谷は十幾つ。ところがそれに対して山の名は四十以上（寺院の山名は除く）、峰や岡、台を入れると五十以上になる。取り上げている地域は現在の東京二十三区を大きくはみ出して、西は日野、東は船橋、北は大宮、南は横浜までをカバーしているとはいえ、この江戸の都には「坂」と「山（とよばれる地域）」がほぼ同率で存在していたことがわかる。

しかし命名される坂は人口増加にともない、居住地区が増殖するほどに増え続けるから、現在では都内に八百ほどあると推定されている。ところが山のほうは鉄道が敷かれ、道路が整備され、埋立地や造成地が増えるほどに削られ、今では幻の山となってしまったケースも多い。

さらに、すぐ足元に見えた海岸線や入り江は遙か彼方に後退し、険しい斜面は整地され緩やかになり、かつて庶民を楽しませてくれた山々はビルに囲まれ——というより三階建て程度の建築物でも視界を遮るのに十分な高さなので——その魅力を奪われてしまったかに見える。『江戸名所図会』で紹介された山を探し歩いて、商店街やオフィス街、宅地になっていて地表の凸凹を実感しにくい。

しかし筆者は、たとえばビルやマンションのちよつとした隙間からでも、地面から眺める展望の衝撃的感動、「ここは山だったのか！」という驚きと喜びを読者にお伝えしたい。それだけではない。コンクリートやアスファルトを一枚めくると、そこに隠れていた歴史の秘話が飛び出してくるのである。祀り込められ、封じ込められ、忘れ去られていた信仰や伝承、怨霊までが目を覚ましてくれる。

「幻の山」と「眠っている歴史」を探す東京物見遊山の散策こそ私たち都会人の「癒しの郷を発見する旅」である。

●本書では、失われつつある地名や歴史を掘り起こし、ご紹介するため『新訂 江戸名所図会』（校訂：市古夏生・鈴木健一／ちくま学芸文庫）や『新編武蔵風土記稿』（校訂：蘆田伊人／補訂：根本誠二／雄山閣）などの文献と挿絵を引用しています。その場合、原本に興味を持たれた読者が容易に検索できるように、たとえば『江戸名所図会・巻之四・赤塚明神祠』のように巻、項目、条目を明記しています。また、寺社名も基本的にこれらの文献に準じて明治以前の表記にしています。たとえば根津神社↓根津権現、神田神社↓神田明神などです。ただし、詳細案内地図での表記は現行の名称にしてあります。煩わしく感じられる場合はご容赦ください。

## 第一章 上野山山塊 10

忍ヶ岡・摺鉢山・大仏山 知られざる「上野のお山」の光と影 12

根津権現の胞衣塚えな 「くわほうは寝て待てとこそ聞きつれどねづ権現を見るにつけても」 19

右京山と菊坂 大名の庭園跡と文豪の街は今 20

湯島台地の天神様 男坂、女坂、夫婦坂とくれば中坂は何の坂？ 22

妻恋神社は怨霊が建てた？ 湯島の高台に静かに佇む関東稲荷総社の栄枯盛衰 25

我らが大親分・将門公の山 神田神社などというヤボなよびかたはしない。今でもここは明神様だ 27

## 第二章 日暮しの里山 30

諏訪台の道灌山 太田道灌の砦址↓道灌山か、関道閑の館跡↓道閑山か 32

千駄木山と須藤の滝 千駄の木材を生み出した山から聞こえてくる天狗囃子 34

藤代峠の仲良しベンチ 江戸時代からの名園は山だらけ 36

古墳の上の駒込富士 麦わら蛇のごりやく変遷史 38

小石川たがのきやまと白山はくざん 癒しの坂道の先に発見した「森の中の小さな山」 40

権現山と音羽富士 護国寺境内の案内図に描かれていない二つの山 44

## 第三章 隅田川・新河岸川山脈 46

鉄炮洲富士 規模は小さいが登ってみるとスリリングな峻峰 48

弁天山・奥山・待乳山まつち 江戸庶民が愛しんだ浅草の山々 50

大川富士と宮元町富士 隅田川と荒川に挟まれ、水と山のパワーが凝縮した富士塚 54

稲付城と千葉氏の城址 東西七キロメートルに並ぶ三つの城址 56

土支田山塊と大泉富士 白子川流域に並び立つ山々とミニ富士山 60

## 第四章 滝野川（石神井川）山脈 64

平塚城と豊島氏 名門豊島氏の滅亡と太田道灌の台頭 66

モチ坂頂上 頂上だけ残った坂の展望は？ 69

飛鳥山と王子権現 豊島氏＋八代將軍吉宗⇨王子飛鳥山 70

王子稲荷と名主の滝	神木榎の狐火と滝の公園	72
石神井城址と三宝寺池	石神井の由来、幻の石剣を求めて	74
二十三区内最高地点	標高五十八メートル。都区内最高地点は石神井川の流域にあった	76

## 第五章 神田川山脈 78

御茶ノ水駅の茗溪	神田川の仙台堀奇譚	80
牛天神と暗闇天女	牛坂を登ると貧乏神のお社が	84
椿山と水神宮	目白台地の断崖が「階段ランド」に大変身	86
富塚古墳と高田富士	古墳と富士塚のお引越	90
月見岡の上落合富士	小ぶりながらも威厳のある佇まい	94
久我山・塚山・和泉の森	久我山、浜田山は山だった？	96
遅野井と善福寺池	善福寺川水源の伝説を求めて	98

## 第六章 江戸城外輪山 100

江戸城天守閣址	初代城主は太田道灌でも徳川家康でもない武将だった	102
---------	--------------------------	-----

田安の台	九段坂と田安門と招魂社	106
牛込城址と神楽坂	幻の砦の痕跡を捜す	108
赤根山と赤坂	中央線の上を地下鉄が走る不思議な立体空間	112
星が岡(山王台地)	日枝神社——お猿の山は「星が岡」とよばれる景勝地だった	114
八幡山(亀が岡)	「鶴が岡」から勧請したから「亀が岡」とはめでたいシャレだ	116

## 第七章 湾岸山系 118

大森山王の木原山	木原山山稜は名もない名坂の宝庫	120
御殿山と品川牛頭天王社	埋め立てや鉄道工事のため削られ、大富豪に買い占められた江戸っ子の名所	124
円山とオセンチ山	都区内最大の前方後円墳と学園内の小塚	128
愛宕山	都区内で一番高い天然の山に祀られている神さまとは？	131
お台場の海上郭	江戸幕府の先覚者・江川担庵が築いた砲台	136

## 第八章 南江戸山系 138

- 渋谷城址と大口真神 わちぐらまがみ 渋谷には、若者の街を見下ろす城址と狼を祀る神社がある 140
- 桜丘・鉢山・西郷山 渋谷は山と坂だらけの凸凹地帯 143
- 猿楽塚古墳(去我苦塚) 憂悲苦情を晴らしてくれる六〇七世紀古墳時代末期の円墳 145
- 目黒の元富士と新富士 目黒区にあった二基の富士塚の数奇な運命 146
- 白金台と池田山 白金長者の砦址と都心の隠れ里 150
- 大岡山と鉄飛坂 大岡山の北端を東西に走る坂 152
- 瀬田城址の展望 二子玉川の街並を一望する玉川八景の地 153
- 世田谷城主と常盤姫 世田谷の領主と奥沢城主の娘にまつわるロマンと怨霊 154

## 第九章 新宿山系 158

- 箱根山 蛇も出現する山手線内最高峰。人口の山でも、秘境の神霊スポット 160
- 天神山と紅皿の墓 道真、道灌、家光…時代のヒーローと係わりながら浮沈を繰り返した山 164
- おとめ山・ねずみ山 ロマンの山の正体を探り、幻の山を求めて歩く 166
- 千駄ヶ谷富士のご朱印 現存する江戸最古の富士塚には今も江戸庶民の熱い信仰心が籠る 170
- 空堀に囲まれた四谷天王社 須賀神社——疫病神と幽霊に護られた不思議な空間 172

## 第十章 多摩川古代アルプス 174

- 多摩川浅間神社古墳 雄大なパノラマが楽しめる古墳 176
- 多摩川台の古墳群 多摩川の悠久の流れを見下ろす古代の王墓 178
- 荏原台の古墳群 えはら 時代を超えて一直線に並ぶ古墳。権力者の好む景観はどの時代も変わらない 182
- 野毛大塚古墳 住宅街の中でタイムスリップ 186
- 池上の大山と小山 江戸名所図会に描かれた無名の小山を探す 188

### 主な参考文献 190

#### お山一覧 191

【お断り】本書でご紹介する「お山」は山とよばれてはいても、登山愛好家やトレーニング目的、健康志向の方々の欲求を満たすには誠に情けなく物足りないものです。「すばらしい眺望」とご紹介している場所も、ビルの屋上からの景色にかなうものではないかもしれません。じっさい、かつて山だったといわれた場所も、探し当ててみれば何の変哲もない住宅地になっている例もいくつかあります。富士塚といっても興味の無い方が見れば溶岩と文字が彫られた石の寄せ集めです。本書を手になぞりながらその場に出かけられ、腹立たしく感じられる方がおられるかもしれませんが、読者諸氏の寛大なるご理解を願ひ上げ、さらに図々しく、筆者の好奇心と価値観を共有していただければ、この上なき喜びとさせていただく所存です。